

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 21 年度 第 3 回 議事録」

日時	平成 21 年 9 月 24 日(木) 10:30 ~ 16:00		場所	地盤工学会 地下会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員	別木 孝	午前
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	午前
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	×
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	×
委員(WG5)	横田 聖哉		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG8)	石川 達也				

:出席 午前:午前のみ出席 ×:欠席
議事録担当:川崎 了

配布資料

資料番号なし:室内試験規格・基準委員会平成 21 年度第 3 回議題書

資料 21-3-1(1):「地盤材料試験の方法と解説」定価算出表(2000 部の場合)案

資料 21-3-1(2):赤本の価格の決定の報告

資料 21-3-1(3):「地盤材料試験の方法と解説」原稿ページ数

資料 21-3-2(1):会員からの質問「ボーリング柱状図の表土の土質記号について」に対する
回答

資料 21-3-2(2):国土交通省「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」

資料 21-3-2(3):国土交通省電子納品要領案における柱状図絵模様問題について

資料 21-3-3:JIS 規格の官報公示

資料 21-3-4:室内試験規格・基準委員会平成 21 年度第 2 回議事録

資料 21-3-5:基準部会平成 21 年度第 3 回議事録(案)

資料 21-3-6(1):第 2 回 WG10「土質試験 基本と手引き」改訂編集 WG 議事録

資料 21-3-6(2):ベンダーエレメント試験方法の基準化に関する中間答申

資料 21-3-7:予算の執行状況

議 題:

[審議事項]

1) 赤本改訂版の校正状況について

各 WG より校正状況について報告された後、9 月末までに三稿（または四稿）の校正を必ず完了させることを確認した。プロッタ原稿については、出稿されてから 5 日以内に事務局および各 WG により最終原稿の確認を行う。なお、各 WG の校正状況については、以下のとおりである。

WG1：三稿は校正済みであり、本日の委員会の終了後に事務局まで提出する予定である。地盤工学会基準と国土交通省電子納品要領案の柱状図絵模様が異なっているが、今回の赤本改訂には間に合わないため、そのままとする。

WG2：三稿は校正済みであり、本日の委員会の終了後に事務局まで提出する予定である。

WG3：三稿は校正済みであるが、索引が残っている。また、転載許可も残っている。

WG4：図が非常に多いため、図の校正作業に時間を要している。先週までに出版社へ直接返送し、今は送付待ちの状況にある。四稿で終了する予定。

WG5：三稿の本文のみ校正が終了している。もう少しで校正が終了する予定。

WG6：三稿の校正はほぼ終了しており、本日の委員会の終了後に事務局まで提出する予定である。

WG8：三稿の校正はほぼ終了しており、本日の委員会の終了後に事務局まで提出する予定である。

WG11：二稿の受取が先週だったが、もう少しで校正が終了する。今週中には脱稿したい。索引は未着手である。土性図が国土交通省電子納品要領案の柱状図絵模様と異なっているが、JGS に基づき現状のまま変更せずに進める。

2) 赤本改訂版の価格および原稿執筆料について

- ・総務部からの指示により、会員価格 14,000 円、通常価格 20,000 円と決定した。また、まったく新規に執筆された原稿部分については、すべて原稿料を支払うことになった。なお、総務部が作成した赤本改訂版の定価算出表の中に、平成 21 年度委員会費および原稿料の積算根拠について、総務部まで問い合わせる。（担当：後藤委員長）
- ・ジオシンセティックスはページ数の 100% が対象となるが、特殊土については新規作成分の原稿ページ数について確認する必要がある、確認した後に事務局まで連絡する。（担当：石川委員）
- ・JIS および JGS の原稿に対しては原稿料が発生せず、解説部分が主な対象となる。
- ・岩関係の JGS については、当該 JGS の解説部分のページ数に相当する執筆料を旧基準化委員会（旧基準化 WG）の中で等しく頭割りする。
- ・凍上試験等については、事務局まで確認する。（担当：川崎幹事）

3) 赤本改訂版の分冊方法について

審議した結果、以下のとおりとすることで了承された。

- ・1 分冊と 2 分冊にした場合の販売単価を比較した結果、両者の違いがないこと、また、1 分冊にすれば 3.6kg となり重くなることから、第 1 分冊と第 2 分冊の 2 分冊とする。

- ・2分冊の編構成は、ページ数が約半分ずつになるように分割する。すなわち、第1分冊には「序文」、「まえがき」、「第1編」～「第6編」、第2分冊には「第7編」～「第9編」および「付録」を割り当てる。
- ・販売時においては、分冊販売を不可とする。
- ・2分冊を1つに収める紙製のケースが必要となるため、販売価格の増加の程度について事務局より出版社に確認してもらう。(担当：伊佐治氏)
- ・利用者の利便性を考え、表紙の見開き部分に目次を入れる。

4)土質記号について

資料 21-3-2(3)を用いて、土質柱状図に記載する土質名および土質別柱状図絵模様に関する地盤工学会と国土交通省との用法の不整合について議論した。その結果、以下のように対応することになった。

- ・平成16年度から電子納品が既に進められていること、実務では粘性土という分類で使用されていること、青本において現行の国土交通省の電子納品要領を解説で使用していること、などの理由により、国土交通省に対して地盤工学会が申入れを実施しても拒否される可能性が高いと判断し、申入れを行わないことにする。
- ・今回改訂される赤本については、「JGSにおける記号および絵模様が、国土交通省の電子納品要領の記号および絵模様と異なっているので注意が必要」なる趣旨の文章を、第2編の「総説」または「まえがき」に加筆する。(対応：杉井委員)
- ・「土質試験 基本と手引き」についても、地盤工学会と国土交通省との用法の不整合について記述する。(対応：杉井委員)
- ・5年後の見直し時に、地盤工学会と国土交通省との用法の不整合を解消するように JGS 0051 を改正する必要がある。

5)来年度の委員会メンバーについて

当委員会内で議論した結果、次期の委員長の意向を第一とし、尊重することになった。すなわち、新委員長を(年内に)最初に決めてから、来年度の委員会メンバーについて(年度内に)議論することになった。なお、出された主な意見は、以下のとおりである。

- ・メンバー構成については、次年度以降の活動計画を考慮しながら、総入れ換え、半数入れ換えなどを検討する必要がある。
- ・通常の規格・規準のメンテナンス活動と、5年後の赤本改訂作業の両方をにらんだメンバー構成を考える必要がある。
- ・今回の JIS 改正時に JISC から多くの宿題が出されているため、次回の JIS 対応には多くの時間が必要である。すなわち、活動を早めにスタートする必要がある。
- ・「赤本改訂」と「JIS 改定」は、同時期において一緒に対応した方がよい。

6)来年度の新規 WG について

資料 21-3-6(2)を基に、WG9 を来年度の新規の基準化 WG とすることについて議論した。出された主な意見は、以下のとおりである。

- ・基準化自体に対して反対するものではないが、せん断波速度を算出するための距離と

時間の決め方を始め、基準化に際して解決すべき課題が多く残されている。

- ・アンケート調査の結果からも明らかなように、基準化に対する賛成意見は多い。しかし、基準化に対して強い反対意見が少なからず存在している点が気かりである。
- ・適用範囲を、砂質土および粘性土としているが、実務でもっとも必要とされているのは、硬質地盤や岩屑混じり地盤であると意見があった。これに対し、適用範囲を広げる検討は行おうが、現時点で、他の手法と比較しても同等の結果が出るといえる地盤材料を適用範囲としていると回答があった。
- ・例えば、供試体の寸法や形状、試料の種類など、具体的にどこまでを基準化するのか、予想される基準案の具体的なイメージがわいてこない。答申の中で明確に記述する必要がある。
- ・作成された基準案が上申され、「基準部会」「理事会」「会員への公示」と進んでいく際に、それぞれの審議に耐えうるだけの基準案が作成できるのか心配である。

委員会内で議論した結論として、新規の基準化 WG を設置することにして暫定的に来年度の予算化をしておくこと、具体的な基準案を示していただくこと、今後の委員会内における審議は電子メールによって行うことになった。なお、今年度が WG 活動の最終年度であることから、報告書を提出する必要がある。

7) 本部および支部主催の赤本講習会について (PPT 原稿の流用等)

本部主催の赤本講習会において使用したパワーポイント (PPT) のデータの著作権について議論した。その結果、各 PPT データの作成者は著作権を放棄し、支部主催の赤本講習会へ流用してもらって構わないとすることで了承された。

- ・各支部からの講師依頼に対しては、個別に対応する。
- ・講習会の配布資料は、A4 版用紙に 4～6 枚のスライド、赤黒印刷となる。
- ・赤本改訂版の原稿に使われている図表の PPT への使用の可否について、出版社に問い合わせる。(担当: 川崎幹事)

8) その他

- ・調整料および校正料の取扱いについて審議した。その結果、調整料と校正料に関しては、両者を区別せず、一緒に合計した金額として取扱うこと、各 WG に対して、担当した各編の原稿ページ数に応じた金額を割り振ること、割り振られた金額の取扱いは基本的に各 WG に任せるが、各 WG の関係者間で均等割にすることを原則とすること、幹事会に対しては、「序文」、「まえがき」、「第 1 編」、「付録」の原稿ページ数に応じた金額を割り振ることになり、これらが了承された。

【報告事項】

1) JIS 関係の対応について

- ・平成 21 年 9 月 3 日に合計 17 件の JIS 規格の改正が官報公示されたとの報告があった。
- ・CBR 試験方法の英語規格名において複数形の「s」を削除して欲しいとの要望が出されていた件については、修正が間に合わないため現状のままとし、修正しないことになった。

2) 会員からの質問対応について

資料 21-3-2(1)を基に、会員からの質問に対する対応を地盤調査規格・基準委員会と当委員会との連名で回答書を返送したことが報告された。

3) 基準部会（9/10 開催）の報告

資料 21-3-5 に基づいて、基準部会の報告がなされた。その主なものは、改正 JIS17 件の掲載のための転載許可願いの提出について、点载荷試験の青本における取扱いについて、などである。

4) 各 WG からの活動報告

WG10 より、以下のような報告がなされた。

- ・ 次回の第 3 回 WG 会議は 10 月下旬に開催し、最終原稿の検討を実施する。
- ・ 11 月下旬に「土質試験 基本と手引き」改訂版の最終原稿を出版社に入稿する。
- ・ 当初の計画のとおり、改訂版は平成 22 年 2 月上旬に出版できる見込みである。

5) その他

- ・ 事務局の人事異動として、日向氏が 8 月末で退職され、その後任を新たに地主氏が担当する旨の報告があった。
- ・ 現時点では、今年度中における当委員会の開催予定はない。基本的に、審議すべき事項は電子メールによる委員会審議を中心に実施することになる。なお、必要に応じて、委員会を開催する場合がある。

以上